

おくまんのん遺跡

はっくつだより

◆発掘作業が終了しました

おくまんのん遺跡は、下伊那郡喬木村の阿島区北に位置します。縄文時代の遺物散布地とされてきましたが、これまで発掘調査は行われていませんでした。

今回の発掘調査はリニア中央新幹線の建設事業に伴い、4月中旬より約1ヶ月間実施しました。調査面積450㎡と小規模なものでしたが、多量の湧き水と格闘しながらの調査でした。



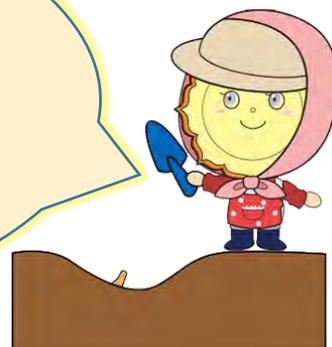
おくまんのん遺跡位置図
(喬木村歴史民俗資料館展示 昭和48年撮影)



作業風景

◆「おくまんのん」の名前の由来

「おくまんのん」とは、遺跡一帯に残る地名です。名前の由来については諸説ありますが、地元住民の話によると、かつてこの付近には熊野社が存在し、「おくまの様」と呼ばれていたそうです。その「おくまの」が訛って、この一帯が「おくまんのん」と呼ばれるようになったとか。



◆調査の成果

調査の結果、今回の調査地は谷の中に位置し、山から運ばれた土砂が堆積していることが判明しました。建物跡などは見つかりませんでした。堆積した土砂の中には、土器や石器などの遺物が混ざっていました。土器は弥生時代や古代のもので、石器は弥生時代の打製石斧などでした。

縄文時代の遺跡と考えられていたおくまんのん遺跡ですが、弥生時代や古代の遺物が出土したことは、遺跡の再評価をしていくうえで重要な発見となりました。



堆積の様子



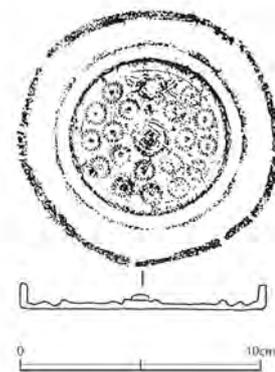
出土した土器・石器

◆おくまんのんの周辺遺跡

おくまんのん遺跡周辺には、独特な器形や文様を持つ弥生時代中期の「阿島式土器」が出土した阿島遺跡をはじめとし、多くの遺跡が存在します。阿島城熊野支城もそのひとつで、おくまんのん遺跡の東の城原台地上に位置します。喬木村教育委員会が過去に実施した調査では、建物跡などが確認されたほか、15世紀末～16世紀前半とみられる陶磁器や銅鏡が出土しました。

阿島式土器や阿島城熊野支城の銅鏡は、現在も喬木村歴史民俗資料館で見ることができます。

また、この台地上にはかつて「熊野古墳」が存在していたほか、弥生時代後期の建物跡も確認されています。今回の調査成果とどう結びつくのか、今後の検討課題となりそうです。



阿島城熊野支城出土の銅鏡

(出典：『阿島城原城跡』 喬木村教委 1991)

..... おくまんのん遺跡はくつたより (令和2年5月発行)

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4

TEL 026-293-5926

HP : <http://naganomaibun.or.jp/>

飯田支所

〒395-0151 飯田市北方 297-5

TEL0265-49-0736 FAX0265-49-0731

(担当：齋田 明・伊藤 愛)